



一つの希望

多田 鐵雄

幼稚園に入園の当時、誰とも全く口をきかなかつた子供が、次第にお話の仲間に入るようになったのを見たり集団の中で勝手気ままな行動をして周囲の子供たちに迷惑ばかりかけていた子供が、だんだん周囲に協調して行くありさまを見てみると、「あゝやはり幼稚園かな」と思う。又親たちから「幼稚園に通うようになってから、規則的な生活をするせいでしょうか。適当な運動をとることがつづくからでしょうか、子供が入園前とは打つて變つて丈夫になりました」と感謝されたりすると、日本中の凡ての子供が、ほんとに一人の例外もなしに幼稚園の生活を体験することが出来るようになれば、どんなにいゝだろうと考えるのである。しかし、このように幼稚園教育者の努力がきめんに利いて行くこの時期の子供の取扱いは、それが万一にも誤まつてゐるならば、これ

亦その子供にとつて取返しのない損失になるのだと云うことを、ひるがえつて考えると、その責任の重大さに、たゞたゞ恐ろしくなるばかりである。そのようなわけであるから、幼児教育に当るものは、たえず思いをここに致して、あやまることのないように、又はあやまりのより少いようにと、正しい教育の実際を考えて行かなければなるまい。

私の幼稚園の創立何十周年かの記念式のこと、卒業園児総代で東大を出た二十六才の青年が祝辞を述べたことがあつた。その祝辞の中で幼稚園時代の思い出にふれて「あの頃、園長先生に先導されて両手を握り、ヨイシヨイシヨと舟を漕ぐ動作を繰返したことが、未だに時折思い出されるばかりか、今でも僕が仕事や何かで難関にぶつかつたりすると『こうしてヨイシヨ、ヨイシヨと力一杯、一生懸命漕いで行けば、どんな大波の中をも乗り切つて行けるのです。さあ、皆で力一杯、一生懸命に』とはげまして下さつた園長先生の言葉が脳裏によみがえつて来て、何くそと僕はがんばる気持になるのです」と云うのであつた。これは故高木兼寛博士の創案になる国民体操と云うのを当時は私の幼稚園で取入れていたからである。もしこのような幼稚園時代の経験が半生にわたつて生きているとするならば、これは大変なことであ

る。私は自分の幼稚園時代の記憶をやはり沢山持つているが、それは今思い浮べても、ほのかに心あたたまる、甘い、やさしいことばかりであつて、その中に強かつた子供と対抗して争つたことどももふくまれているが、それも喧嘩であるとか、憎しみであるとかの性質は帯びていなかつたように思い出される。又よく幼稚園から来た子供は小学校で知つたか振りをしたりして不真面目で困ると云うようなことが云われ——もつともそれは小学校

の先生の指導、取扱の仕方が不十分であるからだ、私は理由付けているのである——るが、私に関する限り、学校の先生が優秀であつたせいもあるうが、小学校へ入つた当時は、緊張して先生の云うことをよく聞き、行儀もよかつたので、第二学期には級長にされたほどであつた。——ただしその後はあまり香ばしくないのであるが、それはよこみちのことであり、云わぬが花でもあるう——それであるから、私は自分なりにその当時はよい園児であつたし、小学校新入生としてもよい児童であつたとばかり考えていたのである。ところが私が三十二三の頃、ふとある人と逢つて幼年時代を話し合つたところその人は私と同じ幼稚園にいたのであり、しかも三ヶ月だけでやめてしまつたのだそうであるが、その理由が、一人の子供にいじめられて恐くて幼稚園に行けなくなつ

たからであつた。そしてよく話を進めて見ると、私には全くおぼえがないのに、その人はそのいじめた子供が私であつたと推定するのである。名前、住所、境遇などをその人は、はつきりおぼえていて、それが寸分間違ひなく私なのである。知らないうちに一人の子供にこんなにも影響を与えた。これも大変なことだと思つたのである。

このような問題はこれまでになされている幼児教育に関する色々の指導書によるだけでは、はつきりとはとらえられて来ないものであらう。もしこのような事実、材料が私たち幼児教育に当る者に示されるならば、どんなに有益であらう。たとえば、私はさきほど牛島義友氏の「小学生の心理」を面白く有益に読ませていただいた。それは青年男女が小学校時代を回想して書いた手記を材料にして小学生時代の心理をとりあつかつているのである。これと同様な方法で、即ち成人が自己の幼稚園時代を回想して書いた手記をあつめ、それを整理して、幼稚園時代の心理、生活、影響、その他の問題点を示してくれるような仕事を企てて下さる人が出て来たら、どんなに有難いことかと思ふのである。